

## 平成 27 年度 第 2 回帯広市環境審議会 議事録（概要）

日 時：平成 28 年 2 月 9 日（火）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所：帯広市役所 10 階 第 6 会議室

出席委員：梅津会長、明石委員、小原委員、加納委員、郷委員、橋本委員、久永委員、  
松原委員、谷津委員、山中委員

（欠席者：今出副会長、石井委員、寒川井委員、田沼委員、山根委員）

事務局：安達市民環境部長、和田環境担当調整監、榎本環境都市推進課長、  
小林課長補佐、小泉主任補、石井主任補

傍聴者等：報道関係者 4 名

配布資料：議事次第、委員名簿、座席表、帯広市自然環境保全地区保全計画案（資料 1）、  
環境モデル都市における平成 26 年度の実施の評価結果（資料 2）、  
平成 28 年度事業の概要（資料 3-1、3-2）

### 1 開 会

#### 出席確認

事務局から、15 名中 10 名の委員が出席し、審議会が成立していることを報告。

### 2 諮 問

米沢市長（前田副市長が代理）から会長に、帯広市自然環境保全地区（戸蔦中島大川河  
畔林 中島町東 6 線 99 番 1 外）の指定について諮問。

### 3 副市長挨拶

### 4 議 事

#### （1）諮問事項

帯広市自然環境保全地区候補地（戸蔦中島大川河畔林 中島町東 6 線 99 番 1 外）の  
指定にあたり、環境審議会の審議を経るため、その概要及び保全計画案について事務局よ  
り説明。

#### ○委員からの意見・質疑

【委 員】ハルニレが中心になっているというのは珍しいタイプの森林だと思います。と  
いうのは、結構な時間がかからなければハルニレは大きく成長しない植物で、ヤ  
チダモとか湿性の林などは比較的多く見られますが、このタイプの森は珍しいと  
言って良いと思います。

それから下層の植生ですが、植物の好きな方だと採りたくなるような、非常に  
良い植物がありますし、こういったものは時間が経たないと生育地としては成立  
しないようなものですので、運良く持ち主の方が触らずに置いて頂けたとい

うことで、自然植生としては非常に価値のある森林ではないかと思えます。

オヒョウについても、大抵はシカに食べられてなくなってしまうタイプの種なのですが、これが結構あるというのも珍しく、保全対象候補になるのがうなずける森林ではないか考えております。

【会 長】委員より、専門の立場からの保全の重要性ということでご意見頂きましたけれども他に何かございませんか。

【委 員】この航空写真を見ますと、境界からこちら側には畑が広がっており、この一角だけ指定されるのですが、所有者の方の同意に至った経緯はどのようなのでしょうか。市が調査した結果、珍しいものがある、自然のまま残っているから指定したいのか、それとも所有者の方から申請があったのか、どちらでしょうか。

【事務局】市側で、航空写真や、過去に調査した植生をまとめた図面を参考に、その中から候補地をピックアップしています。今回もその内の一つとして、実際に現地を何回か確認に行き、ハルニレの大木などが見受けられるので調査をする価値があるだろうということで、所有者の方の許可を得て調査し、差し支えなければ保全地区として指定させて頂きたいということで、今回の指定に向け、保全計画案の策定まで至っているという状況です。

所有者から聞いた話では、先々代まで畑として利用していたのですが、洪水によって土砂に埋もれてしまい、再生を断念し、その後は自家用薪炭林として、燃料を採るための森として維持していたとのことでした。

【委 員】保全地区に指定されると、そういう手は加えられない事になるわけですね。

【事務局】基本的に手を加える事はできなくなりますが、所有者の方が自家用に薪炭を採る目的で利用している事実がありますので、木を刈り過ぎないように、例えば大きな落ち枝を利用するとか、そういった方向で森として維持して頂くということを条件に、多少の利用は構わないということでお話しさせて頂いております。

【事務局】補足させていただきます。この森林の中に排水路がありまして、この排水路を境に左右に分かれているのですが、この右側の部分については、所有者の方も薪炭を採ったりするようなことなく、ほぼ手を付けずに残してきた場所ということとして、保全計画の中でも特に右側の部分については、植物の採取とか薪炭の採取といったことも含め、利用は原則行わないという事で、より厳しく制限していくような形での保全計画を考えています。

【委 員】保全地区には標識等を立てる予定はあるのでしょうか。立札は設置するとあっ

たのですが、例えば既設の D 型ハウスを境界とするとか、木々に標識を付けて明確に保全地区とそうでない地区を区分するような予定はあるのでしょうか。

【事務局】看板を立てる位置はこの図で示している一箇所を予定しています。D 型ハウスには民地を通らないと到達できないため、地元の人以外が立ち入るとか、人が通り抜けて行けるような場所ではないということでしたので、こちら側ではなく、札内川堤防の管理用道路が堤内の方に延びていて、そのちょうど突き当たりの部分辺りに看板を立てて、この区域を明示するという形でどうだろうかということと所有者の方と話しており、この位置に看板を立てるということで進めてきています。

実際に現地へ行くと、進入口はこの看板を立てようとしている所にしか見当たらない状況で、あとは堤防側からアクセスするような場所になりますので、看板の位置、明示する場所としてはここがもっとも適当な場所だろうと考えております。

【会長】他に何かございますか。自然環境保全地区の指定について、異議はございませんか。審議会終了後、諮問の通り答申することとしたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

それでは事務局で手続きをお願い致します。

## (2) 報告事項

①環境モデル都市における平成 26 年度の実績の評価結果について、事務局より説明。

### ○委員からの意見・質疑

【委員】自己評価点の 4 や 5 というのは良い数値だと思いますが、全国的に見た場合どうなのでしょう。要はこういう点数をつけるのが普通なのか、それとも 3 が普通なのに 4 と 5 ばかりなのか、そういうところを教えて頂けると雰囲気はわかると思います。

【事務局】環境モデル都市として認定されている都市は 20 程度ございまして、各都市の状況としても、4 や 5 という自己評価が多い状況でございます。そのような中で昨年度、帯広市としては、なかなか CO2 の排出が減らなかった状況がございまして、自己評価としては 3 を付けていたのですが、25 年度と 26 年度の実績を比較した際、数値そのものがかなり向上しているという実態、例えば太陽光発電の設置が 400 件程度増えていることなどを鑑みただけでは、短期目標に掲げた数値を達成できるのではないかとということで、5 として評価させて頂いたもので、日本中の自治体に対してモデルとなる取組という部分では、帯広市の取組としてはさまざまな実績に基づいて 4 や 5 という評価をさせて頂いています。

【会 長】「温室効果ガスの削減・吸収量」の前の自己評価はどうでしたか。

【事務局】3でした。資料の表の右側に「実排出係数」と「排出係数固定」という、それぞれ数値が書かれています。その右隣に前年度比の数値が書かれています。昨年はいずれもプラスだったということで、排出量が増加している状況の中で4という数値をつけるというのはいかがなものかという事もございましたので、前は3と記載しています。

【会 長】これは電力排出係数のことも加味してもプラスですか。

【事務局】プラスとなってございました。

【委 員】「地域活力の創出」では自然観察会が61回行われたとあるのですが、1年間の実績でしょうか。

【事務局】1年間の数値でございます。

【委 員】自然観察会の案内は広報か何かに出てましたか。

【事務局】帯広の森はぐくむでの取組のひとつとなっております。

【委 員】これは定期的に行われているものでしょうか。

【事務局】そうです。

【会 長】61回って多いですね。結構な頻度ですね。

【委 員】そうですね、この他にもいろんな団体がやっている活動を入れればもっと実績は上がると思います。市民協働でいろいろな団体がやっていますから、それもカウントしたらどうでしょうか。

【事務局】市民の取組という事で評価軸の中の一つとしても入ってございますので、さまざまな部分でアンテナを広げていきながら、帯広市の取組として有意義なものについては積極的に公表していきたいと考えてございます。

【委 員】そういった活動も入れたら、たぶん100回ぐらいになるのでは。

【委員】「取組の普及・展開」における、JICA研修受入人数に関してですが、他の団体からホームステイの受入要請がありまして、10時から夕方5時くらいまで、迎えに行って送って行って、2人ずつ来られて、家で食事をしたり一緒に美術館に行ったり、そういうことをしてもらえませんか、という内容でした。我が家でも受け入れることになったのですが、市の方でも何かそういう取り組みというのは他の課も含め、発信しているのでしょうか。

【会長】JICA研修生の市民の受け入れみたいな事でしょうか。

【委員】通訳が付かないということで、言葉の障壁があってなかなか受け入れることが難しいのですが。

【会長】たぶんJICAの環境に関係する研修受入が30名ということで、ここに記載してあると思うのですが、事務局のほうで内容は分かりますか。違う部署ですよ。

【事務局】例えば、海外からの農業研修生を受け入れることで、現地ではまだ焼畑農業とかが行われているところも多いんですが、日本の環境配慮型農業を学んで現地で実践することによって現地におけるCO2削減っていう部分では大きく貢献できます。こういった研修への参加人数などが想定されます。

【委員】この間JICAに行きましたら、色んな国の方が普通に一緒にお食事したりしていたのを見ました。そこで思い出したのですが、大分昔の話になりますが、各国の方達はその国の料理を紹介して、私達もそこに入って一緒に料理を作るっていうのがあったんですね。

【会長】そういう事業ありましたね。

【委員】中国の方とか入って一緒にギョーザを作ってすごく楽しかったんですね。言葉もあまり通じなかったのですが、そういう人々との交流会があっても楽しいと思います。

【事務局】広報とかホームページなんかでも、そういった事業については周知しているのですが、なかなか届きにくいように思います。担当部署のほうにも伝えておきます。

【委員】JICAのホームページの中の帯広支部のところに小さく出てますね、サポーター募集と。ホームステイの受け入れ先を登録して下さいとか、そういうのは

ありますが、積極的ではないです。

【会 長】JICAのコースは帯広市がある程度協力してやったということで載せているということですか

【事務局】モデルの取組を紹介しているような、そういうコースに私達が出向いていったようなものを載せています。

【会 長】帯広市としていろいろ講義をしたりとか、やったのが30名と。

【事務局】環境に繋がるもの、CO2 排出削減防止につながるテーマを拾っています。

【会 長】JICAは色んなコースがあって、環境に関する研修では直接市役所で講義をされたかどうかは分かりませんが、もっと大勢来ているような気がしますので、この辺でも貢献しているのだと思います。他に何かございますか。

【委 員】環境モデル都市は全国でもまだそんなに多くないと思いますが、モデル都市間で交流等はあるのですか。ここのモデル都市はすごいとか、そういうものを取り入れようとか、参考になる取組みがあるとか、そういうのはあるのでしょうか。

【事務局】モデル都市同士の交流という形では特段ないのですが、ただ全国のモデル都市の取組を紹介するような場があります。そういったセミナー等に参加して、取り入れられるものはないのかなということで情報収集には努めています。

【事務局】先ほど、委員からあった全国的にどのくらいの位置にいるのかというお話にも繋がるのですが、それぞれモデル都市の指定を受けているところは大都市もあれば小さな町もありまして、その地域の特徴を踏まえて、それぞれの取組の目標計画を立てています。ですから同じようにどこの成績が良いのかというような比較は難しいですけれども、各自治体がその地域の特徴をいかに活かしながらやっていくか、そういった情報は、先日フォローアップを受けてきた際に、控え室でそれぞれの都市が控えていますので、そこで情報交換させて頂きながら、また審査員の方からも他の都市ではこういった事をやっているよといったアドバイスを受けながら、帯広市に取り入れられるものはないか、アンテナを立てて、日々情報収集している状況です。

【委 員】はぐくむの話が出てますが、あそこはすごく綺麗で、良い感じで運営されているなと思っているのですが、意外と知らない人が多いですね。もったいないなと、いつも思っているので、市役所内部の組織に委託する形で運営されていると思ひ

ますが、もっと大々的に宣伝するとか、何か策があると良いのではないかといつも思って見えています。

【事務局】帯広の森の部分は都市建設部のみどりの課が所管してまして、今お話にあったとおり指定管理者が管理し、イベント等も色々やっております。資料では来館者1万5千人という事になってはいますが、これから森も成熟していきます。もうすでに40年という長い月日が経ってまして、管理も含め、はぐくむを拠点にするという考えは持っていますし、まだ市民の方の中では帯広の森は運動施設というイメージが非常に強うございます。近くにはサラダ館もございますし、森の中にパークゴルフ場も3箇所ございますので、そういった部分での連携ですとか、多くの市民が散歩に来られてますので、そういった意味でも、広く深く、ただ急激にという事はなかなか難しい部分もあるかもしれませんが、PRしていこうと思います。環境の方も全市的な部分ということになればお互いが連携しあってやっていかなければと思います。

【委員】スポーツ施設としてもすばらしくて、沢山の人が利用していて、テニスコートとかスケート場とかもいつも駐車場がいっぱいになるぐらい人が使っているのですが、趣味でサラダ館を使っている人はサラダ館ばかりだし、テニスをする人はテニスコートばかりで、皆がもっと色んなところがあることをわかった上で使えば、もっと良いだろうなといつも思って見えています。

②平成28年度の事業概要について、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

【会長】環境学習の推進事業ということで、平成31年までに、市立小・中・高、全ての学校を認定することを目標としているということでしたが、現時点での進捗状況はどうですか。

【事務局】今年度当初で28校となっていて、今年度、新たに4校認定の見込みとなっていますので、全41校中、32校になる予定です。

【委員】帯広市の公共施設における太陽光パネルの設置状況についてですが、帯広市は冬の間、良く晴れて環境的に恵まれているので、もっと太陽光パネルを市の施設に取り付けて、電力の自給自足を進めたほうが良いと思いますが、どのくらい付けられているのでしょうか。

【事務局】平成26年度末現在の数字ですが、市有施設のうち、20件に太陽光発電シス

テムが設置されております。その他、地中熱ヒートポンプが2つの施設、また、太陽熱給湯システムが1つの施設、それ以外に木質ペレットストーブが市有施設で18台の設置となっております。

【委員】学校や公共施設は沢山あると思いますが、市債を発行してでも、スピードアップして設置していくことは考えていないのでしょうか。

【事務局】予算の兼ね合いもありますので、必要に応じて、優先順位とかそういったものを考えながら、順次、設置しているところでございます。

【委員】せっかく恵まれている環境だから、もっとスピードアップできないかなって思っていて聞きました。

【事務局】学校施設につきましては、基本的には大規模改修とか建替えに合わせて対応するとか、あるいは天然ガス化は進めております。学校全体の施設整備、環境整備が必要な部分もございまして、基本の方針としては大規模に手を入れる時に合わせてやるという形です。

【委員】市では公共施設の統廃合を検討されていて、昨年、勉強会に参加したのですが、やはり優先順位をつけて大規模な改修なり新規にやるときのタイミングに合わせて、効率的にやった方が良いと思います。公共施設もかなり老朽化しているものもあるし、廃止した方が良いものもあるし、統合した方が良いものもあるのは事実だと思います。

【委員】毎回出てくる、日高山脈国定公園を国立公園にするという話なのですが、ここは国立公園になってもおかしくない場所だということは、重々承知しているのですが、国立公園になることでどういうメリットがあるのか教えて頂ければと思います。

【事務局】メリットとしましては、国立公園というのは基本的には豊かな自然環境に裏打ちされた景観が大きなポイントであることが環境省のホームページ等で示されています。あとは既存の国立公園をご覧になれば分かる通り、豊かな自然環境、貴重な自然環境が守られることが大きなメリットになります。単に自然環境を保全するだけでなく、その豊かな自然環境を守る為に周囲の地域についても、必要な限度の規制がかかってくるのが国立公園、国定公園、自然公園という制度になっておりまして、その必要な限度の規制の中で開発、平たく言えばアクセスを良くするための道路の整備とか、公園を利用するために必要な施設、例えば北海道でいうと阿寒湖の国立公園とか洞爺の国立公園などに行きますとビジターセン



ターというものがあるのですが、そうした来訪者のための施設といったようなものが整備されるようなことになります。当然そのような集客できる施設が整備されれば、帯広市にとっても十勝にとっても、経済的なメリットがありますので、私どもの環境的な観点というものもありますし、地域の活力という観点からも国立公園化の要望、情報収集などに取組んでいくということです。

## 5 閉会